



愛媛大学で国際会議開催

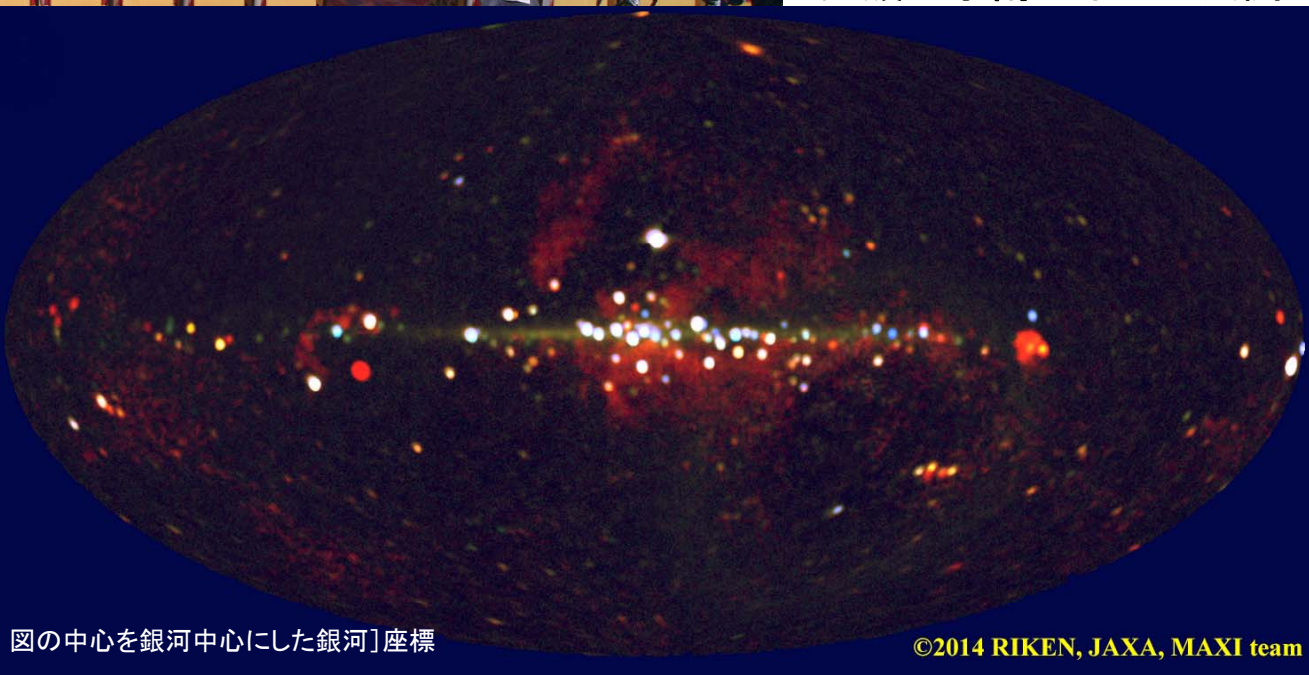
2014年3月10日 MAXI チーム(MM)

- MAXIは2014年2月19日から22日まで4日間にわたって、「すざく」X線天文衛星と合同の国際会議を愛媛大学にて開催しました。「MAXI」と「すざく」は、連携観測を11天体について行っており、共通の科学的な意義があり、また多くの研究者が両チームに所属しています。この会議は「発展するX線天文学のフロンティア」を掲げ、現在と将来のX線放射天体に基づく高エネルギー天文学について議論しました。
- MAXIはこれまで単独で4回の国際会議(1999, 2001, 2008, 2010)を行ってきました。これまでの国際会議では全天X線監視観測の技術的な内容や監視で得られる一次的な観測結果をとりあげてきました。今回は連携観測も含め多くの本格的な科学的成果が発表されました。
- 参加者は229名(外国からの参加者45名)で、「すざく」と「MAXI」チームの他、最新のNASAの硬X線望遠鏡衛星(NuSTAR)の成果も加わり発表と議論が活発に行われました。研究分野は、中性子星、ブラックホール、新星・超新星、活動銀河核、銀河団、拡散したX線の大構造など多岐にわたりました。X線天文学は今や光や電波の天文学と並んで宇宙・天文学の全分野に欠かせない情報を提供しています。そのなかで現在、MAXIは突発天体を捉え変動の激しい状態を監視できる最良の観測手段であることを再認識しました。
- この国際会議は、運用8年を超えた「すざく」と4年半になる「MAXI」の研究者が合同で主催し、理化学研究所、JAXA宇宙科学研究所、宇宙科学振興会、愛媛大学の資金的支援によって愛媛大学南加(なんか)記念ホールで開催されました。



↑ 国際会議が開催された
愛媛大学南加ホール玄関

この国際会議では 212論文が発表された。分野は、超新星などによって銀河系内の広がったX線源、ブラックホール・中性子星・白色矮星に関わる高エネルギー天体、通常の銀河系や活動銀河核からの高エネルギー現象、銀河団など多分野にわたる。銀河中心から広がったX線の大構造はMAXIの得意分野であり多くの関心が集まった。MAXIは現在、突発性X線天体の発見では世界の先頭を走っていることや、4年余の長期にモニターされたブラックホールや中性子星天体の振る舞いについても新しい成果が発表され関心を呼んだ。



図の中心を銀河中心にした銀河]座標

©2014 RIKEN, JAXA, MAXI team

↑ 会議では上図のMAXIのガススリットカメラ(GSC)とCCDカメラ(SSC)で4年半で得られた全天のX線像が披露され、最後のサマリー講演にも取り上げられた。